

LM・オーストラリア高配当株ファンド (毎月分配型)

追加型投信／海外／資産複合

交付運用報告書

第73期(決算日2017年10月20日) 第74期(決算日2017年11月20日) 第75期(決算日2017年12月20日)
第76期(決算日2018年1月22日) 第77期(決算日2018年2月20日) 第78期(決算日2018年3月20日)

作成対象期間(2017年9月21日～2018年3月20日)

第78期末(2018年3月20日)	
基準価額	9,208円
純資産総額	413,567百万円
第73期～第78期	
騰落率	△ 5.6%
分配金(税込み)合計	900円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)」は、2018年3月20日に第78期の決算を行いました。

当ファンドは、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

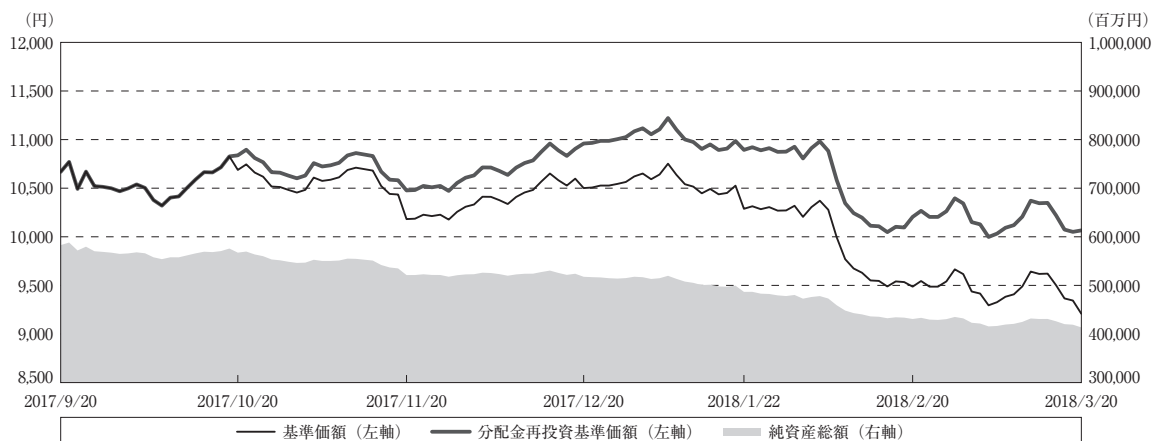
(営業日の9:00～17:00)

<http://www.leggmason.co.jp>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2017年9月21日～2018年3月20日）



第73期首：10,668円

第78期末：9,208円（既払分配金(税込み)：900円）

騰落率：△ 5.6%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2017年9月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期末（2018年3月20日）のLM・オーストラリア高配当株ファンド（毎月分配型）（以下、当ファンド）の基準価額は9,208円（分配金控除後）となりました。当作成期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス5.6%（分配金再投資ベース）、基準価額は560円（分配金込み）下落しました。豪ドル安・円高を反映し、為替要因がマイナスとなったことから、基準価額は下落しました。一方、株式市場が上昇したことから、株式要因はプラス寄与となりました。

1万口当たりの費用明細

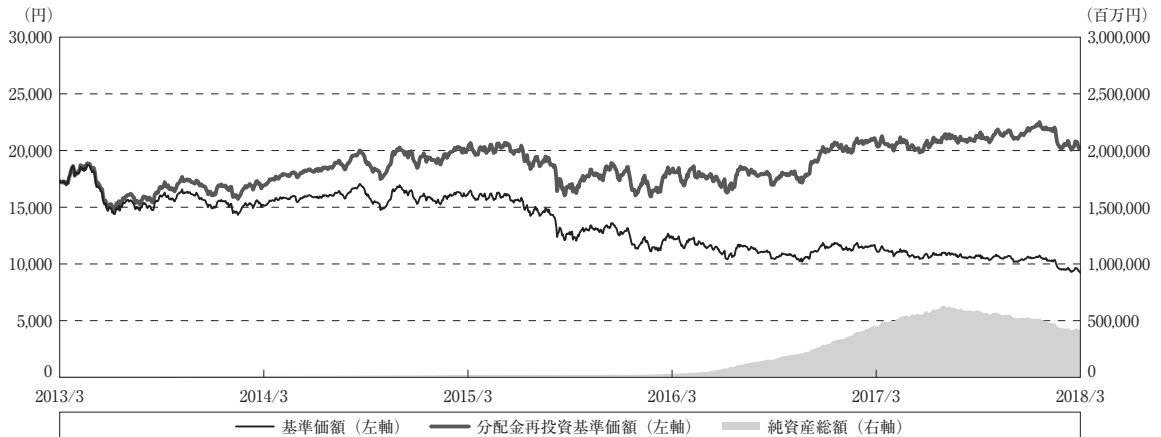
（2017年9月21日～2018年3月20日）

項 目	第73期～第78期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	91 (44) (44) (3)	0.889 (0.428) (0.428) (0.032)	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式) (投資証券)	3 (3) (0)	0.025 (0.023) (0.002)	(b) 売買委託手数料 = 作成期間の売買委託手数料 ÷ 作成期間の 平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
(c) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷等費用)	0 (0) (0) (0)	0.004 (0.003) (0.000) (0.000)	(c) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益 権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保 管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付 および届出に係る費用
合 計	94	0.918	
作成期間の平均基準価額は、10,284円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年3月21日～2018年3月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2013年3月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年3月21日 決算日	2014年3月20日 決算日	2015年3月20日 決算日	2016年3月22日 決算日	2017年3月21日 決算日	2018年3月20日 決算日
基準価額 (円)	17,319	15,123	16,117	12,257	11,396	9,208
期間分配金合計(税込み) (円)	-	1,800	1,800	2,250	2,400	1,850
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	△ 2.2	19.3	△ 9.9	15.0	△ 3.6
純資産総額 (百万円)	10,015	11,906	20,830	31,677	453,692	413,567

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

投資環境

（2017年9月21日～2018年3月20日）

当作成期のオーストラリア株式市場は、上昇しました。

期の前半は、国内景気の好調さが意識されたことから、株式市場は堅調な推移となりました。堅調な米国株式市場を背景に投資家心理が好転したことも、豪株式市場を押し上げました。また、オーストラリア準備銀行（RBA）総裁が利上げに慎重な姿勢を示したことなども、株価の下支え要因となりました。

期の半ばは、資源価格の上昇や景気回復への期待感などを背景に、株式市場は底堅く推移しました。米国株式市場が高値を更新する中、投資家のリスク資産への選好が強まったことも、株価の下支えとなりました。しかし、その後、債券利回り上昇の影響などから、株価はやや調整となりました。

期の後半は、米国の利上げペースが速まるとの観測を受け米国株式市場が下落し、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、オーストラリア株式市場も下落しました。しかし、その後、RBAによる利上げ観測が後退したことなどから、株価は買い戻され、底堅く推移しました。

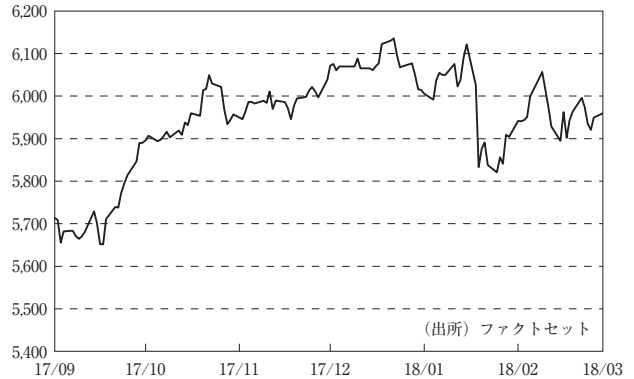
当作成期の豪ドル・円相場は、豪ドル安・円高となりました。

期の前半は、RBA総裁が利上げに慎重な姿勢を示したことなどから、豪ドル売り・円買いが優勢となりました。その後も、債券利回りの低下や消費者物価指数（CPI）が予想を下回ったことなどを背景に、豪ドル売り・円買いが進みました。

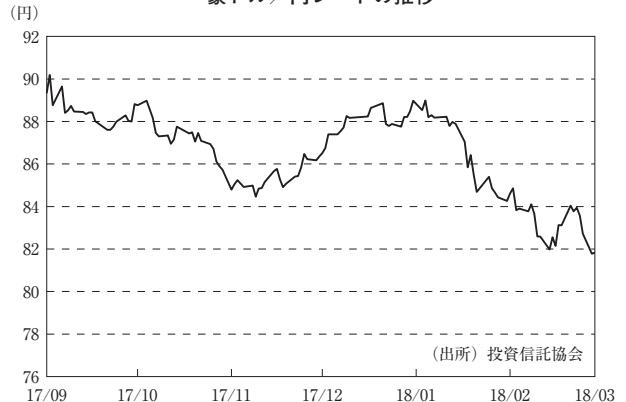
期の半ばは、豪雇用統計で雇用者数が予想を大きく上回ったことや、RBA理事会議事録で2018年の景気加速が示唆されことなどから、豪ドルは対円で反発しました。債券利回りの上昇に加え、資源価格の上昇なども豪ドル買い・円売り材料となりました。

期の後半は、米国をはじめとする世界的な株安を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、豪ドル売り・円買いが優勢となりました。また、RBAによる目先の利上げ観測が後退したことなども、豪ドル売り・円買いにつながりました。

オーストラリア株式指数（ASX200）の推移



豪ドル／円レートの推移



当ファンドのポートフォリオ

（2017年9月21日～2018年3月20日）

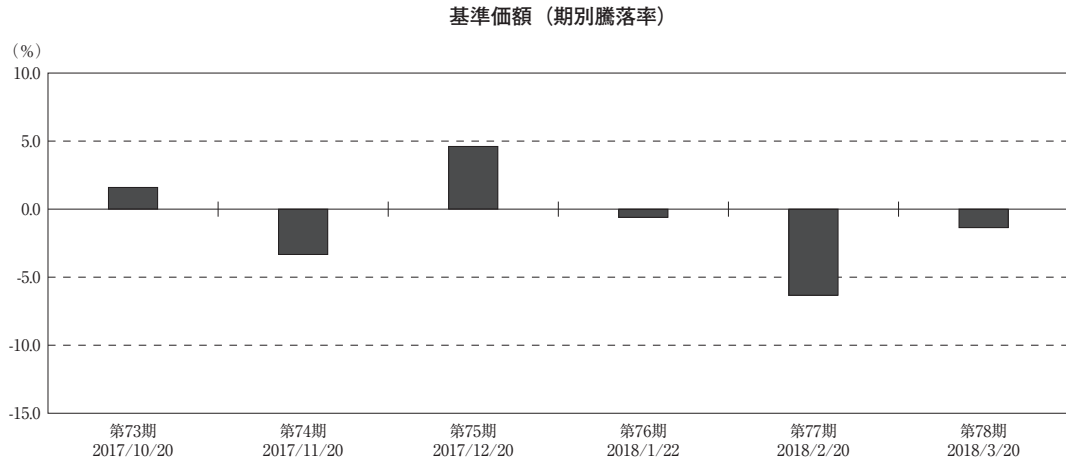
当ファンドは、主に「LM・オーストラリア高配当株マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主にオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うことにより、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指して運用に努めてまいります。また、組入れ外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。当作成期においては、高水準の配当利回りが期待できるオーストラリア株式への投資を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2017年9月21日～2018年3月20日）

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

以下のグラフは、作成期間の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

（2017年9月21日～2018年3月20日）

分配金につきましては、基準価額動向や保有株式の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
	2017年9月21日～ 2017年10月20日	2017年10月21日～ 2017年11月20日	2017年11月21日～ 2017年12月20日	2017年12月21日～ 2018年1月22日	2018年1月23日～ 2018年2月20日	2018年2月21日～ 2018年3月20日
当期分配金 (対基準価額比率)	150 1.384%	150 1.452%	150 1.408%	150 1.437%	150 1.557%	150 1.603%
当期の収益	9	35	78	10	12	113
当期の収益以外	140	114	71	139	137	36
翌期繰越分配対象額	4,503	4,388	4,316	4,177	4,039	4,004

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドは、主にオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うファンドです。引き続き、市場環境を注視しながら、投資魅力が高く、高配当が期待できる銘柄を選別し、ポートフォリオの構築を行ってまいります。

お知らせ

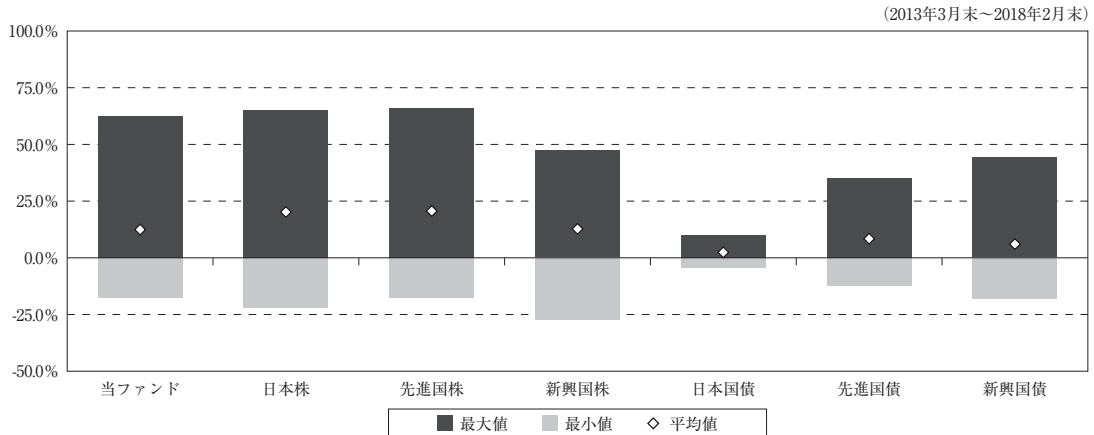
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2011年9月29日～2031年9月22日まで	
運用方針	主にオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うことにより、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	「LM・オーストラリア高配当株マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	LM・オーストラリア高配当株マザーファンド	オーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・オーストラリア高配当株マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎月20日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	62.5	65.0	65.7	47.4	10.1	34.9	44.1
最小値	△ 17.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.3	△ 12.3	△ 18.1
平均値	12.4	20.2	20.6	12.8	2.4	8.4	6.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年3月から2018年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

* 各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

日本国債：FTSE 日本国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：FTSE 新興国市場国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

(注) 海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

(注) 上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します（TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc、FTSE 日本国債インデックス、FTSE 世界国債インデックス、FTSE 新興国市場国債インデックス：FTSE Fixed Income LLC）。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年3月20日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第78期末
LM・オーストラリア高配当株マザーファンド	101.8%
組入銘柄数	1銘柄

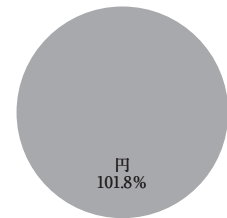
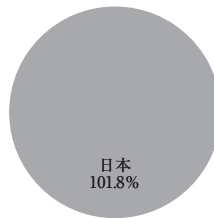
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

純資産等

項目	第73期末	第74期末	第75期末	第76期末	第77期末	第78期末
	2017年10月20日	2017年11月20日	2017年12月20日	2018年1月22日	2018年2月20日	2018年3月20日
純資産総額	567,366,584,889円	521,223,171,514円	517,698,259,560円	486,657,845,224円	430,860,281,527円	413,567,637,317円
受益権総口数	530,856,283,313口	511,910,941,129口	492,997,489,099口	473,044,308,536口	454,176,575,127口	449,127,497,222口
1万口当たり基準価額	10,688円	10,182円	10,501円	10,288円	9,487円	9,208円

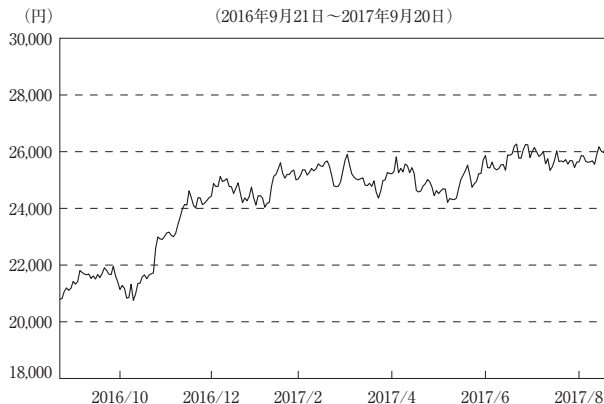
* 当作成期間（第73期～第78期）中における追加設定元本額は13,019,130,721円、同解約元本額は110,279,972,132円です。

組入上位ファンドの概要

L M・オーストラリア高配当株マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年9月21日～2017年9月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年9月21日～2017年9月20日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株証券)	21 (18) (3)	0.088 (0.074) (0.014)
(b) その他費用 (保管費用)	2 (2)	0.007 (0.007)
合計	23	0.095

期中の平均基準価額は、24,363円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2017年9月20日現在)

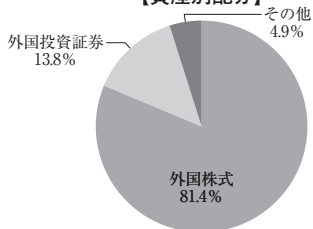
順位	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	WESFARMERS LTD	生活必需品	オーストラリアドル	オーストラリア	6.1
2	WESTPAC BANKING CORP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	5.7
3	TELSTRA CORP LTD	電気通信サービス	オーストラリアドル	オーストラリア	5.4
4	AUST AND NZ BANKING GROUP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	5.4
5	INSURANCE AUSTRALIA GROUP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5
6	COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5
7	AMP LTD	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	4.1
8	VICINITY CENTRES	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	3.4
9	SCENTRE GROUP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	3.4
10	NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	3.3
組入銘柄数			45銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

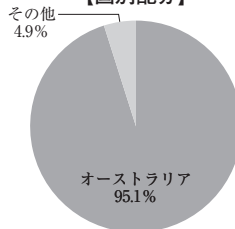
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

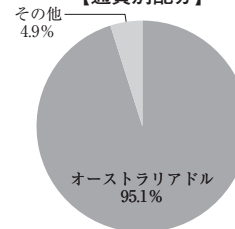
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。